

令和7年度

1級建築施工管理技術検定 第二次検定

解

答

試

案

※ご注意※

- ・本解答は、令和7年10月27日にCIC日本建設情報センターが独自に制作・編集したもので、予告なく変更する場合がございます。また、CIC日本建設情報センターが独自の見解に基づき制作したもので、試験結果等について保証するものではありません。
- ・解答試案の内容及び正当性に関するお問い合わせは受け付けておりませんので、悪しからずご了承ください。
- ・試験実施機関の(一財)建設業振興基金とは、一切関係ございません。

CIC 日本建設情報センター

<https://www.cic-ct.co.jp/>

不許複製

必須問題

問題 1

※施工経験記述問題のため、解答例は省略します。

問題 2

建築工事における次の仮設物の設置を計画するに当たり、検討すべき事項及びその理由を、それぞれ 2 つ具体的に記述する。ただし、解答はすべて異なる内容の記述とし、申請手続、届出及び仮設物設置後の運用管理に関する記述は除くものとする。また、使用資機材に不良品はないものとする。

下記以外にも正答となり得る留意すべき事項はあるが、本試案では代表例を提示する。

1. 仮設ゴンドラ	(1)	設置計画において予定する作業の積載荷重に基づき、揚重能力に余裕のあるゴンドラの使用について検討する。
	(2)	ゴンドラを使用する場所において、当該作業を安全に行うため必要な照度を保持できるよう照明について検討する。
2. 起伏式(ジブ) タワークレーン	(1)	クレーンにその定格荷重をこえる荷重をかけて使用してはならないため、予定するつり荷の荷重を確認して、揚重能力に余裕のあるクレーンの使用を検討する。
	(2)	起伏式タワークレーンは、クレーン明細書に記載されているジブの傾斜角の範囲をこえて使用してはならないため、揚重の際の傾斜角について検討する。
3. 枠組足場を 用いた棚足場	(1)	足場は、足場にかかる荷重状態や使用期間を考慮し、構造上十分安全なものとなるよう留意する。
	(2)	組立て・解体作業において無理や危険がなく、安全で能率的な足場になるよう検討する。

問題 3

1	作業⑦の作業内容	梁配筋
2	総所要日数	24 日
3	作業③の最早開始時期(EST)	2 日
	作業③の最遅開始時期(LST)	3 日
4	作業④のトータルフロート	0 日
	作業⑧のフリーフロート	2 日

問題 4

次の各問いの施工上の留意事項を 2 つ、具体的に記述する。ただし、解答はすべて異なる内容の記述とし、気象条件による作業の中止及び保護具の使用に関する記述は除くものとする。

下記以外にも正答となり得る留意事項はあるが、本試案では代表例を提示する。

1. アースドリル工法のスライム処理又は安定液	(1)	安定液の配合は、必要な造壁性があるうえで、コンクリートとの置換を考慮し、できるだけ低粘性・低比重のものとするよう注意する。
	(2)	バケットは杭径より 10cm 小さいものを用い、バケットの昇降によって孔壁が崩壊することがないように緩やかに行うよう注意する。
2. コールドジョイント発生防止	(1)	打重ね部の締固めは、打ち込み各層毎に行い、先に打ち込まれたコンクリートに振動機の先端が入るようほぼ垂直に挿入して行う。
	(2)	コンクリートの運搬が滞りなく行われるように、コンクリート工場との連携を密にする。
3. 吹付けロックウール工法	(1)	吹付けロックウール工法では、吹付け材の粉塵発生や飛散が生じるため、施工中及び施工後も吹付け材が硬化するまで養生を行う。
	(2)	吹付け厚さについては、柱は 1 面につき 1 本以上、梁は 6 m に付き 3 本以上についてピン等を用いて確認を行う。
4. 外周部の転倒工法解体	(1)	倒す壁の大きさや重量に応じて解体する部材の大きさを検討し、倒壊時の振動を規制値以内に収める。
	(2)	1 回の転倒解体を高さ 1 層分以下、幅は 1 ～ 2 スパン程度とし、転倒時のねじれ防止のため、原則として柱 2 本以上を含むようにする。

問題 5

各記述において、 に当てはまる最も適当な語句又は数値の組合せを、枠内から 1 つ選ぶ。

	最も適当な語句又は数値の組合せ		最も適当な語句又は数値の組合せ
1	④	5	⑤
2	②	6	⑤
3	③	7	②
4	③	8	①

問題 6

各法文において、 に当てはまる正しい語句を、枠内から 1 つ選ぶ。

1. 建設業法	①	⑤
	②	③
2. 建築基準法施行令	③	②
	④	①
3. 労働安全衛生法	⑤	④
	⑥	②